

1 学校教育目標

- やさしい子（豊かな心で思いやりをもち、友達と協力し合える子ども）
- げんきな子（心身ともに健康で、明るく、実行力のある子ども）
- かんがえる子（自分から進んで学び、よく考えて行動できる子ども）

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・子どもたちが楽しく安心して過ごせる学校 ・確かな学力の定着を図る学校 ・人間としての生き方・あり方を学び、思いやりのある学校
○児童・生徒像	・相手を思いやることの出来る豊かな心をもった児童 ・規則正しい生活習慣や家庭学習の習慣を身につけ、確かな学力を身に付けた児童 ・社会のルールを理解し善悪の判断力・規範意識を身に付けた児童
○教師像	・服務に厳正であり、人権感覚を常にもち、常に研究と修養に励み、組織的に課題解決に取り組むことができる教師 ・地域・保護者の思いや願いや考えを理解し、相手の立場に立って考えることができる教師 ・教師としての基礎基本（東京都教育委員会が示す「学習指導力」「生活指導力・進路指導力」「外部との連携・折衝力」「学校運営力・組織貢献力」）、人として社会人としてのマナーを身につけた教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

（1）学校の状況

学校は今年度で創立112周年を迎える歴史と伝統のある学校である。児童数は572人と区内では規模の大きい学校である。児童は明るく活発で、落ち着いて学習に取り組んでいる。教員は半数近くが本校初任の若手の多い学校である。地域の方々はとても協力的であり、各自治会活動が盛んでしっかりしており、学校教育に大変協力的である。

本校は改築工事が予定され、現在設計段階に入っている。工事期間中の児童の運動量、児童の安全について考えていかなければならないことが課題となっている。

（2）前年度の成果と課題

重点的な取組事項－1 学力の向上

・教員が授業力を向上させるために、校内研究を充実して行い、児童が落ち着いて学習に取り組む姿勢がみられた。

6月におこなった区調査の学習意識調査（2年～6年）の結果、「勉強が好きだ」と肯定的な回答した児童が59.2%で区の平均より8ポイント下回っている。学力を引き上げるためには、学ぶことの楽しさを意識した授業改善が必要であると考え。家庭とも協力して、「わかる・楽しい・もっと勉強したい」という気持ちを育てていきたい。

・2月の確認テストの結果、国語全校通過率76.3%、算数全校通過率76.9%、平均通過率76.6%であった。各学年が国語と算数の苦手なところを分析し、手立てを考えた。国語は全体的な傾向として、文章を読み取る力に課題がある。来年度校内研究で、説明文の読み取りに取り組む。そして、低学年の時から、MIMに力を入れて語彙力を高める。算数は、児童に身に付けさせたい力を意識し、既習事項を生かした授業改善を行っていく。日々の授業で、既習事項を生かした授業を行い、図形の領域に課題があるため、児童には日常生活から図形に親しむ機会を意識して増やす。また、区の算数の学力調査

の結果、苦手な単元をあらいだし、つまずきやすい単元の算数の年間指導計画の時数を、1時間から2時間多く取る見直しを行い、学習の定着を図る。現学年で分析した内容を次年度の学年に引き継いでいく。

重点的な取組事項－2 児童がより安全に、安心して元気に学ぶことができる教育の推進

- ・児童アンケートで「友達を大切にしている」と回答している児童は96.3%であった。98%を目指す。
- ・児童の読書活動の充実のため、一人あたりの本の貸出し数を増やす等の取組により、読書量が増えた児童は半数を超えた。次年度も、図書支援員、図書ボランティアの方々と連携を取り合いながら読書活動を推進していく。
- ・外部機関との連携及び学習支援員、スクールアシスタントや学習支援ボランティア等を活用し、学習面・生活指導面で支援の必要な児童の指導の充実を図ったことで、児童が落ち着いて学校生活を送ることができた。

重点的な取組事項－保護者や地域と共に子供を育む学校づくり

- ・6月におこなった区調査の学習意識調査（2年～6年）の結果、「将来の夢や目標をもっている」の項目で、肯定的な回答をした児童が85.7%で、区の平均より1ポイント下回っている。自己肯定感を育むためには、学校と家庭、地域との連携が必要である。「できるようになったこと」「できたこと」「もう少し努力すればできること」を意識させ振り返りを充実させたい。学校では教育活動におけるの価値づけ、振り返りや特別活動のカラー班活動を計画的に、充実させていきたい。
- ・開かれた学校づくり協議会を開催し、管理職や担任から学校の様子を伝えることができたことは成果と言える。
- ・PTA運営委員が計画を立て、会員全員の朝の児童見守り活動を実施していただけたことは、児童の安全な登校に大きく貢献していただいた。
- ・PTA主催の「瀏江フェスタ2022」にはほとんどの児童が参加し、笑顔あふれるひと時となった。蒲原中学校の吹奏楽部にも演奏していただき、大好評であった。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	やすらぎとほりあいのある学校づくり	○	○	○	○	○
3	保護者や地域と共に子供を育む学校づくり	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－１		学力向上アクションプラン				
A　今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
国語科、算数科における基礎基本の定着		国語	８５．０％		自己評価の際に記入	
		算数	８５．０％			

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	AIドリルの活用	算数	通年	はなまる教室 宿題 授業時の復習・確認時に使用する。	学力定着度確認テスト (10月2月)実施	目標値通過率 85%を目指す。	自己評価の際に記入		
継続	放課後 補習教室 (はなまる 教室)	全学年 算数・国語 (区学力 調査の結果から抽出した児童)	毎週 火曜日 放課後 35分 (1年生 は9月 から開始)	【指導者体制】 担任＋学習支援員＋専科 サポートメンバー4名 【取り組みのねらい・目的】 勉強ができる喜びを味わ わせるために実施。つま ずきをさかのぼり、基礎 となる問題や演習問題 を中心に少人数指導。 【使用教材】 プリント教材・東京ベ ーシックドリル	学力定着度確認テスト (10月2月)実施	目標値通過率 85%を目指す。			

継続	サマースクール	全学年 算数国語 学力調査 目標値未 満 各学年 10 名～20 名 程度。	夏季休 業日中 の 10 日 間 各 日 60 分	【指導者体制】 学年の教員＋他学年の教 員＋専科サポートメンバー 4 名 【取り組みのねらい・目 的】 学年の教員の少人数指導 のもと、進める。区学力調 査復習問題集を進めなが ら、前学年の学習内容につ いて、復習をしながら、定 着を図る。復習問題が終わ った時は、夏休みの宿題冊 子等で、現学年の学習内容 の復習を行い、定着を図 る。 【使用教材】区学力調査復 習問題・個に応じた学習プ リント	区学力調査 再調査	目 標 値 通 過 率 8 5 % を 目 指 す。			
継続	家庭学習の 手 引 き 発 行・活用	全学年 全員	通年 年 3 回 5 月、9 月、1 月 に 強 化 週間	【取り組みのねらい・目 的】 家庭学習の習慣化・自主学 習の習慣化 年 3 回の生活・家庭学習強 化週間の時に、宿題の提出 率を各クラスで確認する。 提出できない児童に対し ては、その日のうちに放課 後指導等で課題を終了さ せる。	各担任が、宿 題提出状況の 調査を行う	宿 題 提 出 率 100 % を 目 指 す。			

継続	かけ算九九補習	算数 第2学年以上九九に課題のある児童	年2回個人面談中に実施	【指導者体制】 専科教員 【取り組みのねらい・目的】 3年生以上の学年を対象に、かけ算九九の定着ができていない児童を対象に専科教員が少人数で指導にあたる。 【使用教材】 かけ算九九表・かけ算プリント・100ます計算プリント	かけ算定着テスト	正答率100%を目指す。			
継続	学力調査後と確認テスト後の学年面談	担任	7月 10月 2月	【取り組みのねらい・目的】 確認テスト後に、学年ごとに調査結果の分析・検討を行い、具体的な対策を検討する。 夏休みの宿題に、つまずきやすい単元のところを宿題として出す。	定着度確認テスト	目標値通過率85%を目指す。			
継続	ICTを活用した授業の取組	全教員	通年	【取り組みのねらい・目的】 児童の学力向上・教員の授業力向上・授業改善を目的とし、教員一人一人にタブレット等を使用する授業の回数を第1回目の自己申告の面接で確認する。	教員一人一人が使用する目標を決める。	各教員が設定した目標95%を目指す。			

重点的な取組事項－２ やすらぎとほりあいのある学校づくり					
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
豊かな心の育成		児童アンケートで、「友達を大切にしている」の項目で、児童の割合 98%	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
やすらぎ・ほりあいのある学校生活の充実	・いじめの解決率 100% ・居場所のある学級づくり	・学級や専科の授業で常に児童の様子把握し、いじめの未然防止に最大限の力を尽くす。 ・いじめ相談箱や WebQU 検査等により、早期発見、早期対応、再発防止に努める。 ・児童アンケートで「学校に行くのは楽しいか」と回答する児童の割合 90%以上。	自己評価の際に記入		
読書活動の充実	・児童アンケートによる「読書量の増えた児童」の割合 85%以上を目指す。 ・低学年の読み聞かせの機会を設定する。	・児童アンケートを 1 月に実施する。 ・読書ボランティア・図書館支援員等と連携し、読み聞かせを実施する。(年 2 回)			
特別支援教育の推進	・特別支援学級との交流及び協同学習を年間通して実施する。 ・全学級において、障がい者理解教育のための授業を年 1 回以上実施	・学校行事、縦割り班活動等、交流及び協同学習を実施する。			

異学年交流の充実	・カラー班（異年齢の集団）の活動を通して、自己肯定感の育成を向上させる。	・児童アンケートでカラー班活動の肯定的な回答 90%以上。
----------	--	---

重点的な取組事項－ 3						保護者や地域と共に子供を育む学校づくり								
A 今年度の成果目標			達成基準			実施結果			コメント・課題			達成度		
保護者や地域と共に子供を育む学校づくりを進める。			・ 学校評価アンケート「家庭や地域との連携に関する項目」: 肯定的な回答 80% 以上			自己評価の際に記入								
B 目標実現に向けた取組み														
項目		達成基準		具体的な方策		実施結果			コメント・課題			達成度		
健康教育の推進		・ 体力調査の結果、区の平均を上回る項目数を 5 個以上 ・ う歯の受診率 80%以上 ・ 児童アンケートで朝食の摂取率を 100%		・ 体力調査の結果を分析し、体育の授業改善に生かし体力向上を目指す。向上を目指す。持久走・ なわとび旬間を設定する。 ・ 歯科検診を年間 2 回実施する。個人面談の際に未治療者に治療勧告をする。 ・ 規則正しい生活を実践するための関心と意欲を高める。児童アンケートで朝食の摂取率を調べる。										
P T A や開かれた学校づくり協議会を中心とした協働体制の確立		・ 学校評価アンケート・ 家庭や地域との連携に関する項目：肯定的な回答 8 5 % 以上		・ 各部活動への協力、連携を図る。 ・ 各学年の活動との連携を図る。										

体験的学習場面や地域の教材化や地域の人材を生かした授業づくり	・校外学習・講師による授業等体験的学習を各学年2回以上	・体験的な校外学習を実施する。 ・P T A・開かれた学校づくり協議会との連携による学習場面を設定する。			
あいさつの定着	・児童アンケートで「あいさつができる児童」80%以上を目指す。 ・保護者アンケートで、肯定的な回答 80%以上を目指す。	・複数の教員・P T Aによる校門での挨拶 ・代表委員会、全校児童によるあいさつ運動を実施する。			
食育の推進	・食に関する指導を年間10回以上実施する。 ・残菜率を一か月平均2%以下にする。	・毎月の給食だよりで、食に対する興味・関心を深める内容にする。 ・「もりもりウィーク」等で、児童の食への関心と意欲を高める。			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）